令和6年度専科校友会 準イベント 脚折雨乞（龍神祭）見学 案内

1. 開催日

令和6年8月4日（日）

2. 集合時間・場所

当該行事（詳細は下記参照）は、白鬚神社から「龍神」が出発し約2Km先の雷電池まで練り歩き、池に入って昇天するという雨乞いの伝統行事です。見どころは龍神が池に入る儀式と、最初に神社を出発する儀式となります。通常であれば出発から池入りまでを通して見学する行程にするのですが、

- ①8月4日という猛暑真ただ中の開催であること。
- ②出発から池入りまでの時間が2時間半もかかり、その間に休息する場所が見当たらず、池まで徒歩で移動することになる。
- ③一番盛り上がる池入りの場所が小さく多くの人が集まるため、早めに観賞スペースを確保する必要がある。

等々の理由により、集合時間・場所を2通り設定することにしました。

A 11:30 坂戸駅南口（丸田担当 白鬚神社行）

B 13:00 若葉駅西口（桂・前島担当 雷電池行）

3. 行事スケジュール

12:30～	渡御の儀	○	白鬚神社	15:00	修祓	○	雷電社
13:00	出発	○		15:30～	池入り	↓	雷電池
13:20	祈願	↓	善能寺	16:30～	龍神解体	○	雷電池
13:40～	渡御開始	↓	休息所	17:00	龍神昇天	○	雷電池

4. 参加申込

7月27日（土）までにG. リーダーを通じて丸田へ。

「脚折雨乞」

鶴ヶ島市脚折地区に伝わる降雨祈願の伝統行事で、国の無形民俗文化財に指定されており、起源は江戸時代まで遡る。早魃の年に行われていた雨乞も昭和39年を最後に途絶えてしまったが、乞雨行事が持つ地域の一体感を再認識した地元住民により保存会が結成され、昭和51年に復活し、それ以降4年に一度実施されている。

孟宗竹と麦わらで作られた龍蛇は重さ3t・長さ36mの巨大なもので、群馬県の板倉雷電神社の御神水で行う入魂の儀式により「龍神」となり300人の男衆によって担がれ、白鬚神社から雷電池（かんだちがいけ）までの約2kmを練り歩く。龍神が池に入ると「雨降れたんじゃく、ここに懸かれ黒雲」と叫び、雨乞行事は終焉に向かっていく。「龍神」は担ぎ手によって解体され、その際に頭部の金色の宝珠を我先に奪い合うさまは豪快で圧倒され、その後龍の魂は天へと昇っていきます。

脚折白鬚神社

大化の改新で有名な天智天皇の御代、朝鮮半島の戦乱で一族と共に渡来をした高麗の若光王に霊亀2年（716）武蔵野の西部（高麗郡）を与え住ませた。王は東国に住む渡来人を集め開拓・開墾を行わせた。また天孫降臨の道案内をした国津神の猿田彦命と朝鮮半島出兵で功の有った武内宿禰を白鬚大神として高麗郡内に数社祀った。脚折白鬚神社はその一社で、近郷七ヶ村の総鎮守でもあったという。

以上